

我が子を信じる“親力”が、 子どもの将来の可能性を広げます。

赤ちゃんはママにいろいろな表情を見せてくれます。

泣いたり、ぐずったり、笑ってみたり…。

その姿は、まるで「素直さ」そのもの。

ママは赤ちゃんが見せる表情に一喜一憂しがちですが、
どんな時も、我が子を信じることを忘れないでください。

日本ハグ協会会長
高木さと子さん

誰にもできる簡単なコミュニケーション「ハグ」とコミュニケーションを合わせた「ハグニケーション」を提唱。企業、団体、家庭に向けてさまざまな講演活動やイベントに取り組んでいる。自身も17歳と15歳の男の子のママ。



1歳になると、ますます動きが活発になる赤ちゃん。表情も豊かになり、その姿はまさに小さな天使です。しかし一方で、気に入らないことがあると物を投げたり、辺りかまわず泣きだしたり、ママを困らせることも多いものです。でも、こう考えてみてください。「赤ちゃんは、自分なりのベストを尽くしているだけ」。まだ、人にどう思われるかなんてまったく意識していないのですから。ママにとって大切なことは、我が子が優しく見守ってあげることなのです。

先日、1歳の赤ちゃんとそのママが集まるベビータッチケアのワークショップに行ったのですが、これが実に楽しい。



ずっと笑っている子、ずっとママの膝から離れない子、汗を流しながら泣いている子、いつまでも走りまわっている子…。私はその様子を見ながら「こんな自由に生きられるって素晴らしい」と感心してしまいました。そして、そこにいたママたちの共通点は、どんな状況でもずっと微笑んでいることでした。タッチケアの先生も、こう仰っていました。「お子さんを信じてあげてください」。そう、ママにとって「こうしてくれたら」という時に、赤ちゃんは笑いたい気分、泣きたい気分、走りまわりたい気分だった。ただそれだけのことなのです。

親にとって都合の良い子育てと、子どものために良い子育てとは、まったく違うもの。周りと同じようにしていなくても大丈夫。子育ては比較ではないのですから。赤ちゃんは自由でまっすぐに生きる生命体。おらかな気持ちで信じてあげる“親力”を育てることが、愛する我が子の将来の可能性を広げます。